

第5回 第三次稲城市教育振興基本計画策定委員会 議事要旨

開催日時 令和2年1月28日(火) 午後7時～8時20分
開催場所 市役所4階 議会会議室
出席者 (委員長) 小野委員
(副委員長) 井上委員
(委員) 牧岡委員、渡邊委員、大和田委員、狩野委員、石森委員、
芦沢委員、石井委員、石田委員、大川委員
(事務局) 町田教育総務課長、涌田教育総務係長
コンサルタント1名

会議の概要

1. 各施設意見について

事務局より、資料1に基づき説明があった。

[質疑応答]

委員 6ページの「3」の防災のところだが、資料2の54ページに「子ども防災自助パック」という言葉がある。これはどういうものなのか。

委員 私から説明する。稲城市は防災について手厚く考えてくれている。もし災害があったときに、子どもたちが食べ物とか、そのときに自分で何かしなければいけないこととか、それぞれの家庭に入れてあるものが、学校の中にある。何かあったときにそれを持ち出して、災害時に備えるというものである。

委員 子どもが個々に持っているのか。

委員 個々の子どもが1個ずつ持っている。

委員 保存食と水、あとは家庭との決まりやメッセージなどである。

委員 食料は3日も4日も、ではない。

委員 食料のことはいろいろなところで話が出るが、自助パックということになると、あと何が入っているのかは今まであまり話が出てこなかった。

委員 そのときに子どもが何か忘れないように、家庭と子どもで必要なものが入っている。

委員 「お母さんが絶対に迎えに行くから安心して待っていなさい」みたいな。

委員 約束というか、取り決めというか、子どもが安心できるような家族からのメッセージというものを含めてである。

委員 6ページの「6」の「琴の体験授業も含まれるのか」という意見について、稲城市では音楽の授業で琴を大事にやっているのです、そういう質問があったときには、そのことを説明していただけたらと思う。

事務局 この部分は指導課と調整させていただいたのだが、琴以外にもいろいろな部分があるということで、個々具体的な事項になるので、計画には記載しないこととした。

2. 第三次計画の変更箇所について

事務局より、資料2から資料9に基づき説明があった。

[質疑応答]

(前回の策定委員会での課題事項の確認)

委員 まず2ページの「1 計画策定の目的」の中で、一段落目の最後のほうに「これまで各施策の推進により教育目標を着実に達成してきた一方、5年間の間に新たな課題も出てきました」で終わっているのですが、後ろにつなげるためには、課題として何が出てきたのかを表記したほうがよいのではないかと思います。例えば、幾つもあるのであれば、「何々など」とか表記してはどうか。

もう1点、9ページの「⑤都民ファーストでつくる『新しい東京』の策定」では、「その中の政策の柱の1つ、『未来を担う人材の育成』では、7つの政策目標を掲げ」とあるが、これだけだと教育に関することなのかがわからないので、もう少し何か足したほうがよいのではないかと思います。これが稲城市の計画に影響しているのかどうかというのがこの文章だけでは読めない。

事務局 まず2ページの「新たな課題」の部分については、23ページに「4 稲城市の教育の課題」ということで、全部で13項目記載している。当然、第二次計画の時から継続されている課題もあるが、第三次計画の策定に向けて浮き彫りとなった課題も含まれている。例えば、働き方改革などは第二次計画の時にはなかった観点になるので、委員からご指摘いただいた部分に、「教員の働き方改革などの新たな課題も出てきました」というようなかたちでつなげるのも1つかと思うが、そこだけピックアップして記載してよいのかということもご議論いただければと思う。働き方改革以外にも、スマートフォンが浸透してきて、SNSなどの観点も課題としては挙がっている。そうしたものを入れるかどうかということではいかがか。

委員 もし幾つか例示するのであれば、この計画の趣旨としては、教員の働き方改革を一番に持ってくるより子ども中心の課題を入れたほうがよいと思う。

事務局 事務局としては、子どもの観点の新たな課題となると、第二次計画から継続しているものもあるので、ここは「新たな課題」という記載に留めて、23ページ以降に課題が列挙されていくというかたちがよいと思うが、いかがか。

委員長 今のようなまとめでよろしいか。ご意見がないようなので、そのような方向で、事務局にまとめていただくということでもよろしく願います。

事務局 2点目の「⑤都民ファーストでつくる『新しい東京』の策定」の記載については、事務局で文章を修正させていただければと思うが、よろしいか。

委員 この政策の柱の1つに、教育だとかそういうのはないのか。

事務局 ある。ほとんどが教育に関する7つの目標となっている。

委員 そのまま書いたらどうか。

委員 「未来を担う人材の育成」という表記が柱の1つなのか。

事務局 「未来を担う人材の育成」が一番上に来て、7つの政策目標が連なっている。

委員 例えば、『未来を担う人材の育成』では、教育にかかわる7つの政策目標を掲げ」というのはどうか。

事務局 そのようにしたいと思う。

(測定指標について)

委員 東京都の教育振興基本計画では測定指標を設けていないのか。

事務局 東京都の計画では見受けられなかった。

委員 4ページの「(国)測定指標」の目標(4)について、「学修時間」の「修」と、「学修に対する」の「修」は、「習」という字ではないのか。

また、この目標(4)は、施策の方向性の8番よりも4番のほうが近いのではないかと思う。

事務局 まず「修」の字については、「主として高等教育段階」ということで「修」としていいのかもわからないので、確認させていただきたい。

目標(4)の位置については、教育環境の整備に近い観点だと思い8番に入れたが、委員のご指摘のとおり、4番に記載させていただきたいと思う。

委員 通常こういう計画を立てると、毎年度、PDCAで進捗状況を確認したりする。この計画も、86ページに「計画の進捗状況を適時検証します」とある。今回は測定指標と主な取組があるが、測定指標は5年後に新しい計画を作るときにアンケートの結果で評価をすることになるのか。また、主な取組は毎年評価をしていくのか。その辺はどのように考えているのか。

事務局 おっしゃったとおりで、主な取組については、各課で実績を把握しているので、毎年度進行管理を行うことができると考えている。測定指標については、5年に1度の計画策定のタイミングでアンケートを行い、次の計画につなげていくというようなことで、PDCAを考えている。

委員 市としては、主な取組が計画どおり実施できたかは毎年度検証すべきだと思うが、5年間の計画なので、アンケートについてはそのときの状況でもよいのかなと思う。

委員 大したことはないかもしれないが、方向性の「改善」と「向上」というのが、何が違うのかわかりにくい。減らすべきものを「改善」、増やすべきものを「向上」みたいことが、最初に出てくる表の欄外にでも何か一言書かれているとよいと思う。

事務局 表の見方ということで、言葉の捉え方を記載させていただく。

委員 測定指標の表の中の「方向性」という言葉の使い方は一般的なもののなのか。「指標」があって「現状」があったら、「目標値」ではないにしても、この「方向性」という言葉が一般的なのかが気になった。

事務局 国の計画ではこういった言葉は用いていない。ただ、測定指標の現状をどういった方向で捉えていけばこの計画の成果がより上がるのかということに着目して、「方向性」という言葉を使っている。

委員 私も委員と同じで、「方向性」という言葉はどうなのかと考えていた。具体性に欠けてしまうのではないかと思った。目的を最終的にどこに持っていくかという話なので、「方向性」とは違うのではないか。

委員 31ページの体系表の「施策の方向性」では「向上」、「推進」、「涵養」、「育成」などの言葉を使い、測定指標の方向性では「改善」と「向上」の言葉を使い、それぞれ方向性を示している。「方向性」という言葉が2つ出てくるとするのは、混在してわかりにくい。

委員 改善すべきものと、向上していくべきものを1つの表にしようとするからわかり

づらくなるのではないか。それぞれを別の表にするということも考えてみてはどうか。

事務局 その観点は全くなかった。委員のご意見を伺い、方向性の欄をなくし、「改善すべき指標」と「向上すべき指標」という2段構成で掲載すれば言葉の捉え方の誤解がなくなるのではないかと思った。そのように記載させていただきたい。

委員 現状から5年後の状況が「改善」・「向上」という目標の表現になってくるのかと思うが、仮に、成果物を作るまでの間に、教育委員会や総合教育会議などで、数値にするように言われた場合の腹案などは考えているのか。

事務局 現状からの動きの推移で捉えるということで測定指標を作っているのですが、目標値の設定までは考えていない。

委員 それについて、今出ているこの数値は絶対的なものではなく、アンケートの結果ということなので、それを100にするというのはちょっと無理があると思う。今後、総合教育会議で最終的に見てもらったときに、そういう意見が出たらどうかというものもあるが、1つ考えておかなければいけないのは、今言ったように、これはあくまでもアンケートの数値であるということは忘れてはいけないと思う。

事務局 今の観点も含め、例えば、悩んでいる保護者を1%にするなどの目標値ではなく、あくまでも推移のある数字ということで、全体的な動き方を見るということで、また5年後に考えていきたいと思う。

委員 70ページの「学校施設・設備の充実」の測定指標について。指標と現状はあるが、方向性は特にないということなので、これを載せる必要があるのか。まして、方向性の欄が消えるとなると、何だかよくわからない測定指標になってしまう。すべての施策の方向性について測定指標を載せるという方針はわかるが、これを載せる意味があるかどうか。

事務局 説明が漏れてしまい申し訳ない。資料5の1ページの下の方角い点線の枠の中で、「9 学校施設・設備の充実」について記載している。あくまで施設整備に関する事項であるため、アンケートをもって効果を測るというような観点ではないということから、測定指標については建替移転が1施設で行われるといった観点を記載するとどめて、方向性の観点は省いた。

委員のご指摘は、そもそもこの部分はハードの取組を列挙している部分なので、記載は不要ではないかということによろしいか。

委員 そうである。現状を書いているだけだから、測定指標でも何でもないのでないかと。

委員 今までの流れだと、例えばアンケートの項目に該当するものがあればよいが、ないわけだから、これは書かなくてもよいのではないかと思う。

委員長 省いてもよいのではないかということだが、事務局としてはいかがか。

事務局 ハードの取組事項であり、アンケートから測れるものではないということで、測定指標の記載はしないということで整理させていただきたいと思う。

委員長 計画には載せないということよろしいか。

(委員から同意の応答あり)

委員長 よろしいということなので、そのように願います。

(施策の方向性及びSDGs連携箇所について)

委員 本校ではユニセフ・クリーン大作戦というのを地域の方と連携して行っており、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に該当するというふうに捉えている。施策の方向性3の「地域力を高め活かす教育の推進」に目標11を入れてもよいのではないのかと思うのだが、いかがか。

事務局 内容は確認させていただくが、大きな方向性の合致する部分になるので、追加する方向で考える。

3. その他

①第三次計画の色味について

事務局より、資料10に基づき説明があった。

[質疑応答]

事務局 計画の冊子の色の方向性について、オレンジ系、青系、緑系の3つの中から挙手していただき、色味を決めていきたいと思う。

委員 見本はないのか。

事務局 見本はない。濃淡はいろいろあると思うが、色の方向性を伺えればと思っている。

委員 他の計画との色のバランスなど、偏らないように配慮しなくてもよいのか。それとも、教育はこの色みたいなものはあるのか。

事務局 そうするのは今のところはない。ただ、第二次計画と同様に第三次計画もオレンジでいきたいということであれば、それも1つのご意見だと思う。

委員 例えば、緑の基本計画は緑だったり、農業基本計画だったら青とか、水と緑だったり、長期総合計画はどうなっているかわからないが、別にこだわることはないと思う。結局、フルカラーといっても、中身は第二次計画のような二色刷のようなかたちになるのか。

事務局 いろいろな色が使われることになるかと思うが、全体的な色の方向性について、もし可能であればお聞きしたいと思った。

委員 前はどうか決めたのか。

事務局 おそらく事務局一任だと思う。

委員 表紙のデザインは事務局がしているのか。

事務局 業者にレイアウトを提案していただいている。

委員 子ども・子育て計画では何パターンか出していただいて、どれがよいか選んだような気がする。

事務局 私も子ども・子育て計画の策定にも携わらせていただいたが、あのときは色やレイアウトを聞いていた。今回はレイアウトについてはお任せいただいて、色について伺えればと思った。事務局一任でよろしければ、そのようにさせていただく。

委員 できれば暖かい色味でお願いしたいと思う。

委員長 暖かい色で事務局一任ということでもよろしいか。

委員 よい。

委員長 では事務局によりしく願います。

事務局 暖かい色での一任を承った。責任を持って策定する。

②今後の予定について

事務局より、資料次第に基づき説明があった。今後の計画の策定に関して細かい修正等が出てきた場合は、委員長に一任することとなった。

以上